

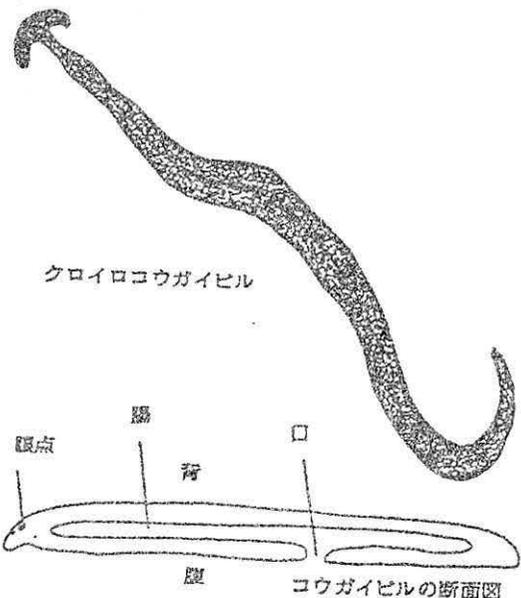
# コウガイビル (穿蛭)

夏も間近になると、いろいろな虫たちがたくさんでてきてにぎやかになります。美しい虫やかわいい虫、役にたつ虫が多いのですが中には気持ち悪いというので嫌われる虫もあります。

山道を歩いていたたり、庭の石の裏をひっくりかえしたりした時、下水の溝のふたをひっくりかえしたりすると、頭の部分が左右に半月形にひろがったためめぬめた長さ12cmくらいまでの生き物がはいまわっているのをざらんになったことのある人も多いことでしょう。これはコウガイビルという名前の生き物です。「コウガイビル」の「コウガイ」というのは昔、女の人が髪の毛をかきあげたり、かざりにした道具のことで、この生き物の頭の部分がこの形に似ていたのでこの名前がついたものです。

さて、コウガイビルはいったい何の仲間でしょう。実は名前こそ「ヒル」ですが、ヒルの仲間ではなく、ずっと下等なプラナリアの仲間なのです。

プラナリア(渦虫)は溪流の石の裏などによくみられる生き物で体をナイフで切っても元に戻る(再



生といいます)性質が強いので有名な生き物です。難しい言葉でいうと、「扁形動物(へんけいどうぶつ)」というグループには入ります。ついでにヒルやミミズは「環形動物(かんけいどうぶつ)」に入り、扁形動物に比べるとずっと高等な動物です。

扁形動物はかなり下等な動物で、口は頭の部分にはなく腹にあり、腸はあっても肛門(お尻の穴)がありません。たべかすがあればまた口から出ます。ですから口と肛門の区別がないといっているのかもしれませんが。また、コウガイビルはどうもうな肉食で、腹にある口でミミズやナメクジなどを襲って食べてしまいます。

「目というものは2個あるもの」というのは当り前のようですが、それも高等な動物でのことで、コウガイビルでは無数の目が頭にあります。さらにコウガイビルは、オスとメスの区別がありません。全てがオスでありメスでもあるのです。

このように、高等な動物では考えもつかないような変わった性質が下等動物には見られます。しかも、コウガイビルは手ごろな大きさの動物で、私達の身近なところにいる動物なので、見かけたらじっくり観察して見てください。(N.N)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒939)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和67年5月/日 発行